

FRUIT FULL TREE



Director of photography kyoumi kido

豊かな樹 ・ 豊寿園

お祝い



吉田登美恵様とご主人様

九月十七日 敬老の日に、園内で“ご長寿のお祝い”を開催しました。
今年は喜寿の方一名、米寿の方五名、白寿の方二名、百歳超の方一名に園長からお祝い状をお渡ししました。また、ご家族様からご本人様へのお祝いや感謝の気持ちの込められたメッセージと思い出のお写真を会場にてご紹介させていただきました。

その中より、吉田様、黒山様ご家族のメッセージをご紹介します。

大好きなトミエ母さん、このような手紙を貴女宛に書くのは四十八年ぶりです。
一通目は、新婚間もないときに貴女に書きました。それは、本社研修で一か月半程出張した時でした。覚えていますか。それ依頼ずーっと一緒に山あり谷ありの人生でしたが無事に乗り越えてきました。
貴女が一生懸命に支えてくれたお蔭です。深く感謝しており、本当に有難う。何度云っても云い足りません。
今度は私が貴女を支える番です。どうぞ一日一日を笑顔で過ごされる様に心から祈っております。
さて、今年も喜寿ですが後二年で金婚式を迎えます。お互い頑張りましょうね。そして、米寿、白寿までも一緒に笑顔で迎えられるよう健康に留意し、何時までも元気でありますよう。
大々大好きな登美恵様へ



ご長寿の



黒山アキエ様とご長女様

母が岡山から私の所に来たのが今から十八年前、六十九歳の時でした。私が仕事をしていたので母が家事をしてくれてとても助かりました。家が狭いため母も少し気兼ねをしたのでしよう。

母が大牟田の兄弟の所に行ってくると言っは、しばらくお姉さんの所で生活をしていましたね。私も時々会いに行ったりしていましたね。せつかく私を頼ってきたのと一緒に住まないのもおかしいと思い、家を建てることにしました。母が大牟田で生活して二年位で家も完成し迎えるに行きました。母と一緒に生活するようになったのは平成九年四月頃でした。

六年位経って母の様子がおかしいと気づいたので。私も仕事を辞めて一緒に居るようになりました。周りの人たちのお世話で豊寿園を紹介していただきデイサービスを利用するようになりました。途中でシヨートステイも利用するようになり、豊寿園の皆様には大変感謝しております。

体調を崩したり足を骨折したりして入院しましたね。今は特養に入所して私が時々面会に行っています。最初の頃は『一緒に帰る』と言っていました。今はあまり言わなくなりました。

今年の十一月十九日に八十八歳の誕生日で米寿を迎えます。

おめでどう。これからも元気で長生きしてくださいね。

100歳を迎えられた
宮下花子様とご家族さま

いつまでもお元気で
いてください



豊寿園
アルバム



豊寿園で活躍しています！

喜んでくれるから
頑張れるんです

・介護をめざしたきっかけは？

高校卒業のころから介護に興味がありました。専門学校の人に人と接する仕事がしたいと思ってどうするか悩んでいた時に、介護の仕事をしている先輩と話をして自分も介護の仕事をしようと思いました。

・入社が決まった時の気持ちは？家族は？

正直驚きました。まさか自分が入社できると思いませんでした。家族も驚いてました。

・赤十字の豊寿園で働いてみて感じることは？

毎日が忙しくて大変ですが、今まで学べなかったことを学べて良かったと思います。入社して赤十字のことを知る度に凄いと感じ、その職場で働いていることを嬉しく思います

・救護訓練に参加してどうでしたか？

救護訓練に参加できたことが赤十字への意識が一番変わったと思います。自分自身の意識の変化があったと思います

・あなたにとって介護とは

一人で行うものではなく色々な人と協力し利用者の方に喜んでもらうこと。高齢者の方がもっと幸せに過ごせるようになると良いなと思います。

・これから介護の道に進むあなたへ

介護の仕事は大変だけれど、とてもやりがいがある仕事だと思うので、みんな頑張ってもらいたいと思います

平成24年4月入社 介護職員 森崎雅敦

次号は福本 薫さんを紹介します



あなたと向き合った日々

ご家族様の介護に取り組んだ経験をお話いただくこのコーナー。
今回、荒木敬一郎介護長のインタビューに応じてくださったのは山本秀子様です。

同居に至った経緯

もともとおばあちゃんは長女と同居していましたが、でも、長女は体が弱く、生活がうまくいかなかったこともあり、一七、一八年前に私(二女)が家を購入するのを機に、おばあちゃんと同居を始めました。当時はとても元気で、おばあちゃんが家の掃除から何から全部やってくれていました。私たち夫婦は共稼ぎでしたから、近所の人から市の福祉サービスをすすめられ、利用するようになりました。おばあちゃんは帰ってくるのが楽しかった等と同じような話をしていましたが、当時はさほど気にしていませんでした。

認知症と気付いた時

孫がおばあちゃんを旅行に連れて行きたいと言いつつ、飛行機で沖縄に行った時に、おばあちゃんが『お土産を買った?』等と何度も繰り返していたのを孫はおかしいと気づいたようです。

私がおかしいなと気づいたのは、お茶やお菓子の御膳を置く机をカッターの柄でこさぎ始めたんです。おばあちゃんは『机が汚れるから取ってる』と言いつつ、またその時はおかしな思いつつも認知症とは思ってませんでした。そういうついでに、『お金を盗られた』と言いつつ、泥棒が入ったのかも...と、家族みんなで探す騒動もありましたが、無事にみつかり安心しました。被害妄想は家族を疑うことがあるって言うけど、おばあちゃんの場合『あなたは現金盗られてない?』って、逆に心配してくれていました。本当はおばあちゃんが自分でしまい込んだだけなんですけど、それから机をこさぎ行動がひどくなつて、深さが一皿を超える穴が幾つもみつかったんです。それを見て孫と相談して病院へ連れて行くことにしました。

家族の理解

福祉サービスから戻ると同じことを何回も話を、生の食べ物を買ってきてはどこかにしまい込み腐らせる等の症状が出て、主人に相談すると最初の頃は『歳とったら誰でもそうなる』等の理解を得られていました。認知症が進行するにつれてだんだん清潔保持が上手くできなくなつて、洗った物が汚れていたり、料理の前に手を洗わない等の症状を主人が見て『おばあちゃんには無理やからさせるな』と言われるようになり、それから徘徊が始まると、それから『お腹が空くのか夜中に冷蔵庫を開けたり、手づかみでご飯を食べたり...それを主人が見つけると、サツと隠したりして、『何もさせるな、冷蔵庫にガムテープ』徘徊できないように鍵!』『今思えば、仕方なかったんですけどね。おばあちゃんは『何か手伝おうか?』とよく聞いていました。

認知症高齢者と家族の悲しみ

主人の親を介護するのであれば、何か不満が出た時に主人にぶつけることもできたと思います。でも、自分の親だからそれもできなくて。おばあちゃんは毎日仏壇のおじいちゃんを世話をしていますが、私は『おじいちゃん、早く迎えるにきてよ!』なんて思ったこともありました。

ある時、おばあちゃんと病院に行った時、おばあちゃんが『あ、忘れた!』と言うんです。『何を?』って聞くと、『どうやったら死ぬるか?』って『おばあちゃん馬鹿やね! 医者はお人を助けるためにいるんだよ!』

『生きるも地獄...死ぬのも地獄...』
そんなことがあつて、主人に理解と協力を得て毎週のように色んなところへ連れて行きました。その代り私が責任を持って面倒をみることを約束して。

を約束して。

主人は病院の送迎や外出の際に車を出してくられてとても協力的でしたが、下の世話だけはどうしても...。デイサービスを利用してはいる時なんかは、私は家事をしながらおばあちゃんの出かける準備もして、『あら? おばあちゃん、尿取りパットどこにやった?』なんてこともありました。豊寿園の入所待機順が70何番とかつて言われた時は、『いつそのこと、もっとボケた方が入れるかも...』と思ったこともありました。

入所後の家族の心境

母に少しでも役割分担とかしてあげれば、もっと症状の進行を遅らせることができたかも...。もっと優しく接することができたか...。今となつてはもっとできることがなかったか...。こうすれば良かった...と考えます。

これからはおばあちゃんがだんだん口から食事が食べられなくなつてきて、でもそれは老衰と理解しています。できることならひ孫を抱いてもらいたいと今は思っています。



ご本人様と一緒に紅葉狩りに出かけた時の写真



藤松公民館で体操を教えている杉岡先生。先生と一緒に行う体操に思わず笑顔。



「お願い事は何にしたの？」新門司保育所の園児達と利用者さんとの自然な会話はまるで昔からの友達のように。

赤十字を近くに感じることができる場所・・・



The place which can feel the Red Cross close ...



花壇の整備をしてくださる門司区地区赤十字奉仕団の皆様。いつも感謝しています。



門司区に住む小中学生対象の福祉体験講座。利用者さんと一緒に生け花などをしました。



藤松公民館でカラオケを教えている宮原先生。衣装も本格的で、先生の歌に涙する利用者さんもありました。



日本赤十字社

We are volunteer

赤十字活動を支えるボランティアさんを紹介するコーナーです。

私たちは北九州社会福祉ボランティア大学校で、傾聴ボランティアと認知症サポーター研修講座を受け、平成二十一年一月より毎週火曜日、シヨートステイとデイサービスで活動をさせていただいています。

当初毎回十名前後の利用者の参加があり、研修で学んだような一人一人を相手にした傾聴は難しく、悩みました。

試行錯誤の末、「してあげる活動」から「利用者のみなさんと情緒的に一体感を共有し、共に楽しみながらする活動」を考えました。皆で大きな声を出す発声練習や、パソコンで作成をした果物、魚、動物などのイラストカードを配り、忘れかけた名前や料理方法などを聴かせていただいています。

また、利用者さんが幼いころ歌った季節の童謡・唱歌のイラスト入り歌詞カードを配り、一緒に歌っています。歌い始めると美に楽しそうに和やかな笑顔になります。言葉の出ない方や無表情の方も調子をとりながら口ずさむ姿



谷 勝利さん
 河内 三千代さん
 (傾聴ボランティア)

平成21年より豊寿園に週1回火曜日の10時から活動中。毎回手作りの資料を作ってきてくださり、利用者さんと心の交流が続けられています。



姿みられます。歌にこれまでの様々な人生の思い出に結びついているのでしょうか。歌にまつわるいろいろな思い出や体験を語ってくれます。

毎回活動が終わると、利用者者の皆さんから「ありがとう」「あー楽しかった」「また来てね」などの言葉をいただき、ボランティア活動の喜び、充実感を味わっています。これからも利用者の皆さんの気持ちに寄り添い、思いやりとやさしさをもって活動を続けてまいりたいと思っています。

赤十字グッズの紹介

応急手当セット



ワンタッチ包帯、滅菌カットガーゼ、絆創膏、ポリ手袋、清浄綿、サージカルマスク、救急法の基礎知識をセットされています。

今回、ご紹介する赤十字関連グッズは、応急手当セットです。本体に反射テープを施した収納ケースの中には応急手当に役立つものが一通り入っています。肩から掛けられるベルトもついて持ち運びに便利です。どなたでも購入可能です。

あなたも赤十字活動にご協力していただけませんか？

救護服キューピー



1名の方にプレゼント！
 詳細はお知らせのコーナーを

日赤サービス
<http://www.nisseki-service.com/>

福祉一口メモ

ご存知ですか？

『10月1日は福祉用具の日です』

福祉用具は、高齢者や障害者の日常生活や社会参加にとって大切なものです。しかし、一般には余りなじみがないので、必要な状態になっても、その存在を知らなかったり、例え知っていても周囲を気にして使う事をためらうケースが多いのではないのでしょうか。多くの方々に福祉用具を知っていただき、社会全体が福祉用具を身近に感じられるよう、平成14年から10月1日を「福祉用具の日」とし、この日を通じた福祉用具の普及・啓発キャンペーンを全国一斉に取り組まれています。

「福祉用具の日」を10月1日としたのは、平成5年の福祉用具法の施行日にちなんだためです。

福祉用具と聞いて、まず思い浮かぶのは「車いす」や「介護用ベッド」ではないでしょうか。しかし、高齢者や障害者の自立に役立ち、介護する方の負担を軽減する、そんな役割をもつ福祉用具にはこの他にも便利なものがたくさんあります。高齢者や障害者の様々な生活分野で役立つ福祉用具がたくさんありますので、作業療法士などのリハビリ関係者や福祉用具プランナー、福祉用具専門相談員、ケアマネジャーなどにご相談下さい。



介護一口メモ

高齢者がいつまでも豊かな人生を送るために「口から食べる」ことはとても重要です。普段は意識しませんが、食べ物を口の中に入れ、噛み砕き、そして飲み込むという過程では、顎・頬・唇・舌が大きな働きをしています。そのため、これらの部位を動かしやすいしておくことは、食べ物を「スムーズに食べること」につながります。食前に行う「**口腔体操・パタカラ体操**」はとても有効です。

なぜ？パタカラなの？

- 「パ」ーくちびるを強く閉じて開いて出る音
(くちびるの閉じる力)
食べ物を口の中に取り込む、食べ物をこぼさないように口を開じる、口を閉じて飲み込む運動
- 「タ」ー舌先を上の前歯の裏につけて離すことで出る音
(舌の前方への動き)
舌を使って食べ物を取り込んで、口の奥に運ぶ運動
- 「カ」ー舌を喉の方に、ひいて出る音
(舌の後方への動き)
舌を使って喉まで運べた食べ物を、さらに食道へ運ぶ運動
- 「ラ」ー舌が上あごについて離れる時に出る音
(舌の上方への動き)
舌を使って「ゴクン」と飲み込む運動



「口腔体操」を続けることで、口やその周囲の運動機能や飲み込みの機能を維持・向上することができます。口から美味しく食べ続けるよう「口腔体操」を続けていきましょう！！

お知らせ

🍎 日赤豊寿園 職員採用試験 締切り迫る！！ 【 介護職員：正職員 】

採用試験日：10月29日(月)9時30分～
応募書類・詳細は電話またはホームページで！！
豊寿園ホームページ <http://nissekihoujuen.jp>

🍎 入所申込締切迫る！

北九州市内の特別養護老人ホームの入所申込は10月末までとなっています。
それまでにお申し込んだ方々は、平成24年12月1日からの半年間、希望施設に空きが出るのをお待ちいただく事となります。特養への入所をご希望の方は急ぎ、希望施設にてお申込手続きをお済ませください。

🍎 皆さまからのおたより募集

豊寿園広報紙『豊かな樹』では、みなさまからのご意見、ご感想、介護についてのご質問等をお待ちしております。頂いた方の中から抽選で1名様に赤十字グッズ紹介に掲載しました『**介護服キューピー**』をプレゼント致します。当選発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。メール、お手紙、なんでもかまいません。

宛先は

〒800-0112 北九州市門司区大字畑1808-5
Email info.houjyu.jrc@cnc.bbq.jp

その他さまざまな情報が載っていますので、ぜひ豊寿園ホームページを見にきて下さいね
インターネットで豊寿園と入力しクリック

豊寿園

検索



○編集後記(editorial note)

寒露を過ぎ秋も一段と深まり、朝晩は寒くなりました。寒さが苦手な私は一足早く暖房器具をつけていて、あまりエコ(eco)な体ではありません(笑)。秋は食欲の秋、読書、芸術、スポーツの秋と言われますが、私は今年はスポーツの秋に取り組み冬までには体質改善してみようかな・・・と考えています。目指せエコな身体！！
気温の変化で体調を崩す方が増えてきていますので、皆さん気をつけて下さいね。



広報委員 城戸匡美

地域ぶらり情報

豊寿園職員がお勧めの地域情報を紹介するこのコーナー。

今回は豊寿園ケアプランセンターの城戸匡美さんお勧めの雑貨屋さんです。



門司港レトロ地区を通り過ぎ、関門トンネルの手前の路地を入ると静かな通りに『Raggy』のおしゃれな看板。扉を開くとアンティーク家具に蝶々と独特の色彩の雑貨が並び、外観からは想像つかない異空間が広がる店内。おもに口コミでお客様が来る「知る人ぞ知るお店」なんです。



子供服、インテリア雑貨、輸入雑貨を中心に扱っていて、インポートやビンテージの布地やレースを用い、トリミングや裏地に

いたるまで、ディテールにもこだわりぬいて作られている『fafa』(フェフェ)の商品は他店ではあまり取り扱われていないのでレアな商品です。ポップな色合いで、とっても可愛い！！おしゃれな瓶に入ったコーヒーやアップルジュースも美味しい！！

France製のアロマオイル 20種類の香りを揃えています。みなさんもお気に入りのアロマオイルがきっと見つかるはず。門司港レトロより一歩足を延ばしてレアな商品を見つけてみてはいかがですか？

Raggy

北九州市門司区清見1-4-12
TEL 093-331-2290
(きく湯前)
営業時間(火・水・木・金)
10:00~15:00
定休日 土・日・月





キムさん、ファンさん、リさんと共に

World Red Cross Red Crescent Day
8 May
YOUTH ON THE MOVE

あなたの力を もっと・・・

日本赤十字社 特別介護老人ホーム豊寿園

うに話されていることが印象的でした。

施設は地上三階、地下三階建て（坂道に建てている為、この様な構造だそうです）、地下一階はロビー、事務所、会議室などがあり、一、二階が居住スペースとなっています。

三階が居住スペースはワンフロア一四部屋で、一部屋四人の十六人入所することができます。日本でいうグループホームの様な雰囲気でした。現在内装も終わり、家具などが運び込まれているところでした。

四つの居室の中心にリビングスペースがあり、対面キッチン、ソファ

い施設はソウル市内のどこからでも見ることのできるソウルタワー（南山タワー）がある南山の裾野にあり、都心に近いながらも自然が多く残る地区に建てていました。長い坂道の先に、ドンと、茶色と白のコントラストの綺麗な施設が目に見え込んできました。赤十字マークも大きく壁に記されている為、すぐに赤十字の施設だと分かります。

特派員のイさんも「やっつこ」ままできました。」と、とても嬉しそうになっていました。

また、天気の良い日は散歩に行く事ができる屋上庭園も完備されていました。

現在は入所希望者を受け付けたり、介護職員の面接を行ったりと、大韓赤十字社の介護施設オープンに向けてまだまだ準備で忙しい日々が続くそうです。

豊寿園に視察の為に来園されてから約一年半。この施設に高齢者の方の笑顔が広がる日はもうすぐなんだと私たちも少し感慨深くなりました。

高年齢者介護施設に潜入取材！ 大韓赤十字社初

九月の上旬、私たち広報担当二名と長崎栄養士の三名で、夏休みを利用してバカンスを兼ねて韓国・ソウル市、ヒョルドンに建設中の大韓赤十字社初、高齢者介護施設である、「区立中区老人療養センター」を訪れました。

当初施設は八月中旬にオープン予定とのことであったのでオープン直後の施設を見学する予定で計

画を立てましたが、十月頃にオープンが伸びてしまいました。施設運営についての話を聞くことができました。

ソウル市の繁華街であるミョンドンの隣の駅を降り、そこで豊寿園の広報特派員であるイさんと待ち合わせ。「少し歩きますよ。」と言われる為、最近の韓国の福祉の事などを話しながら歩いて行きましたが、「この道のりが少々きつ

く、十五分ほど坂道をひたすら上りました。それもそのはず、新しく

特派員のイさんも「やっつこ」ままできました。」と、とても嬉しそうになっていました。

南山タワーのふもとにある、閑静で自然豊かな立地



大韓赤十字社 서울특별시지사
구립중구노인요양센터
www.junggusilvercare.org



- ① 外観
- ② リビングにある対面キッチン
- ③ 一部屋4人が入る居室
- ④ 日中テレビを見たり、ゆっくりとくつろげる空間



- ⑥ シャワー付きトイレ
- ⑦ 散歩や式典などの集まりに使われる庭園
- ⑧ 施設のある中区、韓国、赤十字の旗

特集 「世界と もっとクロス計画」

대한 적십자사 처음의 고령자간병 시설에 대해서 이야기한다

大韓赤十字社初の高齢者介護施設について語る in KOREA

いよいよオープンが間近にせまるなか、センター長のキム・ヨンテック氏、事務局長のファン・ミンヒ氏、豊寿園広報誌特派員であるイ・ヒョンスク氏に現在の心境や今後の課題などをお聞きしました。



HOJYUEN X KOREA

이 시설에서 한국 전국토에 적십자사의 시설을 넓혀 가고 싶습니다

この施設から韓国全土に赤十字の施設を広げていきたいんです。

「昨年訪れた豊寿園での運営のことや高齢者施設について教わった事などを参考にさせていただき、ようやく大韓赤十字社初の高齢者施設が開設することになりました。」

と語るのは区立中区高齢者療養センター、センター長のキム氏。日本赤十字社の福祉施設のように、赤十字の理念に基づいた施設を、この施設を足がかりとし、韓国全土に広げていければと考えているとのことでした。

これまで韓国では要介護高齢者は在宅で生活していくことが主で、公的な施設利用は生活困窮者などの低所得者に限られていた為、施設の数も少なく、施設に対するイメージも良くなかったとのことでした。しかし近年韓国の高齢化率は世界で一番のスピードで伸びており、また、女性が就労することが増えている為、施設を利用したいと考えている国民が増えているとのことでした。



원장 김영택
センター長 キム・ヨンテック氏



유타카고도부키원 홍보지 특파원
豊寿園広報誌特派員 イ氏

区立中区高齢者療養センターでは、定員が60名に対し、現在は30名程度の申し込みが来ており、順次面接を行っている最中でした。豊寿園では入所待機者が百名を超えるなど、施設入所を望まれる方が多いなか、韓国ではまだまだ施設入所希望者が日本より少ないイメージを受けました。

한국에서는 개호종사자의 급여가 낮은 것이 앞으로의 과제라고 생각합니다

韓国では介護従事者の給料が低いことが今後の課題だと思えます。

利用者の募集と共に、施設で働く職員の面接も行っているそうです。入所定員が六十名に対し、介護職が二十四名。事務や厨房を含めて四十一名の方が働くそうです。



사무국장 황명희
事務局長 ファン・ミンヒ氏

事務局長のファン氏は「韓国では介護従事者の賃金がとても低いのです。今後高齢者が増える一方で、介護の職に就く人が増えないのではないかと心配です。」と給与面での心配があるとのことでした。韓国では介護を学ぶ若者は多くなっていますが、実際介護職に就く人は少ないんだそうです。

日本でも同様の課題がある為、今後賃金水準を上げる為にも、介護の専門性を高め、利用者のニーズ、家族のニーズに合わせた質の高い介護を提供できるようになる研修を施設で行うことができればいいですね。とお互いの共通課題を再認識しました。

今後は、豊寿園と区立中区高齢者療養センターとの交流などを通して日本と韓国と国は違いますが赤十字社としての福祉施設を盛り上げていき、お互いの良いところを吸収していければいいなと思いました。

最後に、区立中区高齢者療養センターのビジョンは「人道の中の、人間の尊厳の維持」「愛と奉仕を通して人生の質の向上」とのことです。「私たちの施設も豊寿園のような赤十字精神があふれた、地域に愛される施設になればいいなと思います。」とセンター長のキム氏はおっしゃっていました。

追記・・・
先日イさんより10月17日にオープンすることが決まったとの連絡がありました。大韓赤十字社初の施設のオープンおめでとございます。



ソウルタワーと大韓赤十字社本社



⑧



⑦



⑥

2012

Vol. 17

⊕ JAPANESE RED CROSS
SOCIETY FUKUOKA
PREFECTURAL CHAPTER
THE SPECIAL NURSING HOME
HOJUEN

豊
か
な
樹

F R U I T F U L L T R E E



豊
寿
園

Director of photography kyoumi kido

人間を救うのは、人間だ。 Together for humanity

⊕ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society